

各高齢者施設・事業所 管理者 様

群馬県健康福祉部
介護高齢課長 島田 和之

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底について(依頼)

平素から新型コロナウイルス感染症対策への取り組みに御尽力いただき厚く御礼申し上げます。

さて、12月に入り全国的に高齢者施設等におけるクラスターが多数発生し、新規陽性者の増加が顕著となっております。群馬県においても12月9日には一日の感染者数が過去最高を更新し、県内高齢者施設でのクラスターの発生や、福祉事業従事者の感染が続いており、本県でも感染拡大に対する厳重な警戒が必要です。

このことから、県内事業者の皆様には、下記のとおり感染防止対策を徹底し、新型コロナウイルス感染予防に努めていただくほか、職員の皆様にも、周知をお願いします。

記

- 1 毎日、入居者・利用者、職員及び職員の家族の健康状態を把握してください。
- 2 特に、職員に症状がある場合は、必ず、出勤をさせず、医療機関を受診するよう対応してください。
- 3 入居者・利用者に症状がある場合は、速やかに、かかりつけ医・嘱託医・協力医・協力医療機関等で医師の診断を受けるよう対応してください。
- 4 医師の診断等により、新型コロナウイルス感染症が疑われる入居者・利用者・職員が1名でも出た場合、速やかに、各地域の保健所及び当課に報告してください。
- 5 PCR等検査の適用になった入居者・利用者や職員がいる場合は、当課まで連絡をお願いします。
また、PCR等検査の結果判明時にも、当課まで連絡をお願いします。
- 6 管理者においては、貴施設・事業所への感染リスクの低減のため、職員の兼務先の把握を徹底してください。
- 7 引き続き、感染防止対策の徹底（身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い等の新しい生様式の実践（別紙1）、感染リスクが高まる5つの場面を避ける（別紙2）をお願いします。

事務担当

福祉施設係（電話：027-226-2569）
保健・居住施設係（電話：027-226-2566）
居宅サービス係（電話：027-226-2575）

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。**発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養**



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



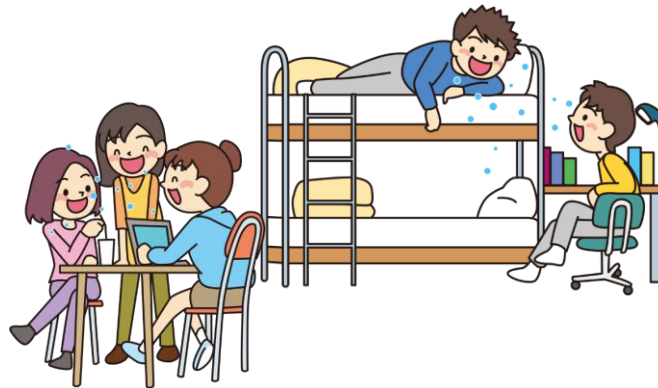
場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

